

UNIVERGE 3C

ワークスタイル変革はUNIVERGE 3Cで始める マルチデバイス対応や内線連携を強化



<http://jpn.nec.com/univerge/>

お問い合わせは、弊社販売店まで

お問い合わせは、下記 の NEC へ

UNIVERGE インフォメーションセンター

E-mail : univergeinfo@usc.jp.nec.com

UNIVERGEは、日本電気株式会社の登録商標です。その他の社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。



●この冊子は「月刊テレコミュニケーション」2013年7月号より抜粋したものです。

●掲載記事の複写・無断転載を禁じます。

NEC UNIVERGE 3C

ユニバージュ スリーシー
ワークスタイル変革はUNIVERGE 3Cで始める
マルチデバイス対応や内線連携を強化

ワークスタイル変革のツールとして企業が注目しているのがユニファイドコミュニケーション(UC)だ。NECは、UC&C*プラットフォーム「UNIVERGE 3C」を7月にバージョンアップする。コミュニケーションサーバ「UNIVERGE SV8500」との内線連携機能を強化し、電話システムへのUC機能のアドオンをサポートする。

*UC&C: Unified Communications & Collaboration

ビジネススピードの向上を目指し、多くの企業がワークスタイルを変革しようと動きだしている。成否のカギを握るのは、場所や時間に囚われず適切なコミュニケーションができる環境を構築すること。それが、企業内の部門やリソースのダイナミックなコラボレーションを実現する。

そのためのツールとして注目されているのが、スマートフォンやタブレット端末だ。これらのスマートデバイスを活用して、ダイナミックなコラボレーションを実現したい——。そうした思いに応えるのがUCである。

UCは、電話やメール、インスタントメッセージ(IM)、Web会議/テレビ会議、グループウェアなど、様々なコミュニケーションツールの統合的な利用を可能にする。離れたオフィスにいる社員同士はもちろん、社外でも携帯電話やスマー

トデバイスを活用して、状況に応じた適切な端末とツールでコミュニケーションを行う、あるいはWeb会議に参加するというように、業務の効率化と意思決定の迅速化をサポートする。

NECが2013年1月から提供を始めた「UNIVERGE 3C」も、このUCを実現するものだ。UCサーバーである「Unified Communication Manager」とWeb会議サーバーの「Collaboration Meeting Manager」という2つのサーバーソフトを核にしたソフトウェア製品であり、汎用サーバー上で稼働する。販売開始以降、同社・企業ネットワーク事業部マネージャーの若杉和徳氏は「スマートデバイスとWeb会議をトリガーとしてワークスタイルを変革したいという商談が多い」と、企業におけるワークスタイル変革の動きを肌で感じている。



NEC
企業ネットワーク事業部
マネージャー
若杉和徳氏

クライアントソフトと内線が高度に連携
電話システムへのUCのアドオンが容易に

UNIVERGE 3Cは大きく3つの特徴を持っている(図表)。

1つ目はマルチデバイスに対応していること。PCで利用するための「UCクライアント」と、スマートデバイス用の「モバイルクライアント」の2種類を用意し、様々なデバイスから音声通話やプレゼンス/IM、Web会議等を利用できる。

特にNECが重視しているのは、PCでもスマートデバイスでも同じ使い勝手を提供することだ。クライアントソフトは画面構成や操作性を共通化し、ユーザーに同じ操作感を提供している。デバイスが変わっても直感的に“同じ感覚”で操作できることは、コミュニケーション端末として重要な要素だ。

2つ目の特徴は、Web会議の音声品質だ。インターネットを利用するWeb会議は音声品質が担保できないので、音声が聞き取りにくい問題が生じる。それに対してUNIVERGE 3Cは、コミュニケーションサーバ「UNIVERGE SV8500」が音声通話を担う仕組みとし、高音質な会議通話を実現している。

3つ目の特徴は、UCクライアントおよびモバイルクライアント(Android)から、UNIVERGE SV8500の内線電話が操作できる「SV内線連携」を実現したこと。これも、コミュニケーションにおける音声品質へのこだわりの1つである。7月から提供を始める最新バージョンのV8.5で実現される。

V8.5は、市場の声を取り入れ、音声品質の高さと慣れ親しんだ操作性といった既存の音声システムの良さを生かしつつ、UCを取り入れられるようにすることを目的に機能強化を図ったものだ。SV内線連携はその一環をなすもの。ほかにもタブレット端末の画面サイズを生かした操作性を実現するなどマルチデバイス対応の面でも強化を図っている。

UNIVERGE 3Cの基本的な使い方は、日常的にコミュニケーションしている部門やチームのメンバーをクライアント画面に一覧表示したコンタクトリストを操作する。コミュニケーションしたい相手のプレゼンスに応じて電話やIMなどから最適なツールを選択できる。それに加えて、V8.5では、クライアントからUNIVERGE SV8500の内線発信や切断、保留、転送など内線電話の操作が行えるようにした。

こうした機能強化により、UNIVERGE SV8500をすでに導入している企業にとっては、従来から利用している内線電話を包含する形で、段階的にUC環境を構築することが容易

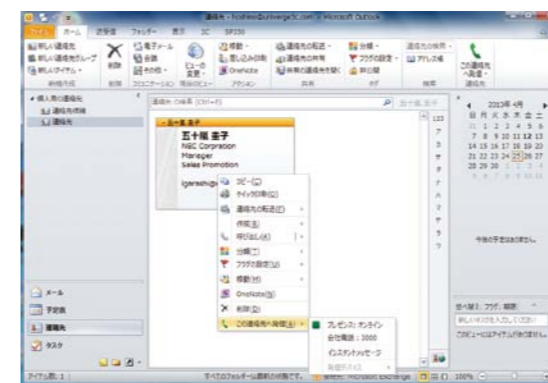


モバイルクライアントのコンタクトリスト画面を操作することによってSV内線連携の利用が可能になった(左)。バージョンアップしたUNIVERGE 3Cはタブレット端末の大画面を有効活用する専用UIを提供する(右)

になる。これは、大きなメリットだ。

もう1つ、スマートフォンに比べて画面サイズの大きいタブレットに対しては、操作感を維持しつつ、大画面を生かした専用ユーザーインターフェースも用意した。画面を左右に分割し、左側にコンタクトリストを表示したまま右側に相手の詳細情報を表示したり、セッション情報を表示したままIMの操作が行うことが可能となった。画面の遷移が少なくなり、操作性の向上にも寄与している。

また、V8.5では、日本マイクロソフトのOutlookからUNIVERGE 3Cを利用できるシステム連携の機能も拡充した。利用頻度が高いOutlookからプレゼンスを参照したり、IMやWeb会議の設定などが行える。Outlook画面のメールアドレスや連絡先のリストを右クリックすることによって、UNIVERGE 3Cによる電話やIMが利用できる。Outlookに慣れ親しんでいるユーザーがUC機能をスムーズに利用できる環境を提供しているわけだ。



従来からのプレゼンス参照に加えて、Outlook上からプレゼンスやIM、コラボレーション会議設定が行えるため、UC機能をスムーズに利用できる

テレビ会議システムとの連携も
さらなる機能強化を推進

UNIVERGE 3Cの提供開始から半年ほどが経過したが、構内で使用しているPHSをスマートフォンに変更したいという企業や、Web会議の活用を考えている企業が採用を検討するなど、市場の評価は上々のようだ。「ワークスタイル変革に対する注目が高まっているなか、UNIVERGE 3Cに対する期待が大きいと感じている」と若杉氏は話す。

さらに、さまざまなビジネスシーンでのコラボレーションを加速するには、市場で普及しているテレビ会議システムとの接続が重要と考え、UNIVERGE 3Cとテレビ会議システムとの連携も検討しているという。また、IT専門要員がいない中小企業でもUCが容易に導入できるよう、クラウドサービスとしてUNIVERGE 3Cを提供することも視野に入れている。

ワークスタイル変革の形は企業によって異なる。若杉氏は「モデルケースを提示して企業にワークスタイル変革のイメージをつかんでいただきたい」とUCの具体的な利用シーンも提示しながら、UNIVERGE 3Cのさらなる強化を進めていく考えだ。

お問い合わせ先

NEC
UNIVERGE インフォメーションセンター
E-Mail: univegeinfo@usc.jp.nec.com
URL: http://jpn.nec.com/univerge/

図表 UNIVERGE 3Cの特徴

マルチデバイス対応

様々なデバイスからプレゼンス、IMを利用可能

UCクライアント
PC用アプリケーション

モバイルクライアント
スマートデバイス用アプリケーション

様々なデバイスで同様のユーザーエクスペリエンス(操作感覚)を提供

高音質なコラボレーション会議

他ユーザーを音声で招待

自分の音声を電話参加

SV内線

SV内線/外線電話を利用して、高音質なコラボレーション会議を実現

V8.5~ SV内線連携

メンバーのアイコンをクリックで、自分の内線から相手に発信

RRR

UCクライアント、モバイルクライアントからのSV内線の操作(発信/切断等)や話中情報のプレゼンス反映を実現